

MORIKITA  
ラブストーリーズ

特集

TOPICS

岩手県立盛岡北高等学校 PTA情報誌

2023.3.1 第4号



MORIKITA

TOPICS

MORIKITA  
ラブストーリーズ

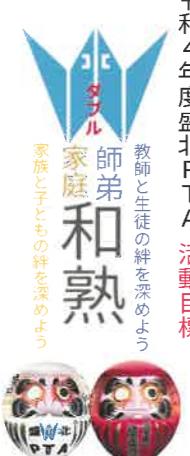
# 特集 愛 MORIKITA

時代に希望が見え始めた  
令和4年度  
私たちMORIKITAは  
持ち前の「愛」のチカラで  
子どもたちを支えようと  
自分たちらしく  
心をこめて活動を進めました  
子どもたちの健やかな成長を  
心から願って——

## MORIKITA ストーリー 1

### 見守る 愛

子どもたちの  
健やかな成長を願い  
見守り続ける愛がある



令和4年度盛北PTA活動目標



### 私たち盛北PTAらしい 愛のこもった活動を継続します

会員の皆様、日ごろより当会の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、当会は本年度、ことばのチカラで会員や子どもたちと「心」でつながろうと昨年度に続いて「ことばの花束」や「ことばの花道」を企画し、理事の皆様をはじめ昨年にも増して多くの皆様のご協力をいただきながら実施いたしました。また会員の皆様からはたくさんの「愛」のこもったメッセージをいただき、心から感謝を申し上げます。

本号の特集テーマは「愛」です。本年度の盛北祭のテーマ「～愛なんだ～」にも用いられたこの言葉は、口にすることは少ないですが、盛北では日ごろから、見守る親の愛や師弟の愛、仲間の絆の愛などたくさんの「愛」が身近にあふれ、子どもたちの歩みを一層豊かなものにしています。本号ではそうした視点から、本年度の取り組みや寄せられたメッセージ、部活動や盛北祭などで活躍する子どもたちの愛らしい姿をあますところなくお伝えできるよう編集を心掛けました。

まだまだ続くであろうコロナ禍の中にあっても、私たちは盛北PTAらしい「愛」のこもった活動をしっかりと継続ていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

会長 中村 直紀

## 令和4年度家庭和熟プロジェクト

### ことばの 花束 第1弾

令和4年8月27日

### 令和5年1月～卒業式

### 第2弾

今巣立ちゆく3年生に  
感謝と激励メッセージ

子どもたちを応援する  
直筆の応援メッセージ

ことばのチカラ

で心をつなごうと  
昨年度に引き続き、8月の盛北祭で「ことばの花束」、1月に「ことばの花道」をそれぞれ企画。たくさんの皆様のご協力を得て生徒昇降口正面に一堂に展示しました。寄せられた愛情いっぱいのメッセージは合わせて70点を越え、子どもたちの心にしっかりと伝わりました。



### 参加者の声



ことばの  
花束

会員(1年)

工藤 涼子さん

ことばの  
花道

会員(2年)

藤原 裕美さん

ことばの  
花道

会員(3年)

大平 琳さん

ことばの  
花道

会員(4年)

後輩たちも協力

ことばの  
花道

会員(5年)

ことばの  
花道

会員(6年)

ことばの  
花道

会員(7年)

ことばの  
花道

会員(8年)

ことばの  
花道

会員(9年)

ことばの  
花道

会員(10年)

ことばの  
花道

会員(11年)

ことばの  
花道

会員(12年)

ことばの  
花道

会員(13年)

ことばの  
花道

会員(14年)

ことばの  
花道

会員(15年)

ことばの  
花道

会員(16年)

ことばの  
花道

会員(17年)

ことばの  
花道

会員(18年)

ことばの  
花道

会員(19年)

ことばの  
花道

会員(20年)

ことばの  
花道

会員(21年)

ことばの  
花道

会員(22年)

ことばの  
花道

会員(23年)

ことばの  
花道

会員(24年)

ことばの  
花道

会員(25年)

ことばの  
花道

会員(26年)

ことばの  
花道

会員(27年)

ことばの  
花道

会員(28年)

ことばの  
花道

会員(29年)

ことばの  
花道

会員(30年)

ことばの  
花道

会員(31年)

ことばの  
花道

会員(32年)

ことばの  
花道

会員(33年)

ことばの  
花道

会員(34年)

ことばの  
花道

会員(35年)

ことばの  
花道

会員(36年)

ことばの  
花道

会員(37年)

ことばの  
花道

会員(38年)

ことばの  
花道

会員(39年)

ことばの  
花道

会員(40年)

ことばの  
花道

会員(41年)

ことばの  
花道

会員(42年)

ことばの  
花道

会員(43年)

ことばの  
花道

会員(44年)

ことばの  
花道

会員(45年)

ことばの  
花道

会員(46年)

ことばの  
花道

会員(47年)

ことばの  
花道

会員(48年)

ことばの  
花道

会員(49年)

ことばの  
花道

会員(50年)

ことばの  
花道

会員(51年)

ことばの  
花道

会員(52年)

ことばの  
花道

会員(53年)

ことばの  
花道

会員(54年)

ことばの  
花道

会員(55年)

ことばの  
花道

会員(56年)

ことばの  
花道

会員(57年)

ことばの  
花道

会員(58年)

ことばの  
花道

会員(59年)

ことばの  
花道

会員(60年)

ことばの  
花道

会員(61年)

ことばの  
花道

会員(62年)

ことばの  
花道

会員(63年)

ことばの  
花道

会員(64年)

ことばの  
花道

会員(65年)

ことばの  
花道

会員(66年)

ことばの  
花道

会員(67年)

ことばの  
花道

会員(68年)

ことばの  
花道

会員(69年)

ことばの  
花道

会員(70年)

ことばの  
花道

会員(71年)

ことばの  
花道

会員(72年)

ことばの  
花道

# 家庭和塾



## 愛情と明るさいっぱいの性教育 子どもたちや保護者から大反響

令和4年度の健康講座は令和4年6月28日、3年生200人を対象に本校で開催されました。

本年度はハッピーバース研究会の助産師、吉田理恵さんを講師に迎え「世界一受けたい性教育!自分らしく生きるために大切なこと」と題し講演を行いました。講演では、吉田先生から生き方としての性教育についてお話をいただき、明るさいっぱいの愛の種まきを受けた子どもたちは、恋愛の話では生き生きと、生き方の話ではより真剣に、周囲の人と語り合いながら学びを深めました。また、好評を受け保護者への動画配信を実施。「互いを大切に思い尊重する気持ちの根っこは、家族の愛をしっかりと感じて自信が持てるこだと思った」などの感想が寄せられました。

輝かせていくこと  
あなたはとても大切な人。  
自分の関係を求める  
大切なこと  
お互いが  
そなく、  
ぞれ相行動  
人の手も自  
生は自分



講師 吉田 理恵さん

岩手県二戸市出身。41歳。岩手県立大学看護学部卒業。3児を出産後に岩手看護短期大学で助産師の資格を取得。クリニックで勤務するかたわら学校現場での性教育講演会を行っている。



## 第71回東北地区高P連盛岡大会 盛北PTAが成功に大きく貢献

第71回東北地区高P連盛岡大会は令和4年6月30日と7月1日の両日、「えん~応えよう、援けよう、団まろう、子どもたちの未来のために~」をテーマに盛岡市民文化センターで約1,000人が参加し開催されました。

6年ぶりの盛岡大会は、コロナ禍で3年ぶりの対面開催となり、パネルディスカッションや高校生のアトラクション、応援団活動の紹介など数々の新企画が盛り込まれました。大会運営は、本校の志田順悦前会長が実行委員長を務め、中村直紀会長はじめ10名がスタッフとして参加し、大会の成功を大きく支えました。



実行委員長を務めた  
志田 順悦 前会長



会員(3年)  
八幡 美紀さん



理事(2年)  
松下紗矢香さん

## 大会テーマは盛北から

私は実行委員長として大会に参加しました。大会テーマの選定では、盛北のPTA活動で学んだ人との「えん」の大切さを念頭に私が原案を考案し賛同者とともに提案。多数の賛同を得て大会テーマに採用されました。盛北PTAの活動の成果は様々な場面で活用されています。大会にご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

## 地元大会は貴重な経験

私は会場係として大会に参加しました。舞台袖から見たステージ発表する生徒たちの姿がとても輝いていたのが印象的でした。活動制限の中で一生懸命練習を重ねてきたことがよく伝わってきました。6年に1度の地元開催大会に携わることができて大変貴重な経験になりました。色々な活動がこうして活発になっていけば良いですね。



### MORIKITAを知る 1

盛北名物の「紅白だるま」

白ダルマは盛北PTAのマスコットキャラクターとしてR3年度に考案され意味は「目標達成」。赤だるまは、毎年共通テスト100日前に3年生が目入れを行う縁起物。盛北ならではのあったかいアイテムです。



## 恒例のPTA研修旅行 秋田県立大などを視察

令和4年度PTA研修旅行は令和4年6月10日、秋田県立大学大潟キャンパスなどで開催されました。

当日は会員12名が参加し、視察先の秋田県立大学では、アグリイノベーション教育研究センターで講義を聴講し、スマート農業の説明を受け農薬散布などに使用する農業用ドローンの実演を見学。そのほか寒風山や男鹿水族館を見学し、会員同士の親睦も深まりました。

毎年恒例の本研修は、盛北PTAならではの充実した学びと親睦を深めることができる行事として好評を博しています。



会員(3年)  
小山田千鶴さん

## ワクワクした充実の1日!

初めて参加しました。コロナ禍も少し落ち着き、会員が直接会って会話や体験を共有できて嬉しかったです。秋田県立大ではスマート農業の最先端の機械を見学してワクワク。充実した一日でした。コロナ禍で悔しい思いをしてきた子どもたちにも今年こそ楽しい行事が実行されるよう祈りながら帰宅しました。



理事(2年)  
松下紗矢香さん

## 登校時一声運動(5/11、10/6)



「今日は寒いね」があいさつになった岩手山初冠雪の日に参加。登校する子どもたちの明るい声とマスクの下の笑顔に元気を分けてもらい職場に向かいました。登校する様子を直接見て、子どもたちの成長を感じることができました。

## 令和4年度(4年4月~5年3月) PTA・教育振興会の主な事業

- 4月 8日(金) 入学式 PTA・教育振興会入会式  
4月18日(月) PTA・教育振興会会計監査  
4月27日(水) 東北地区高P連盛岡大会拡大総務委員会【県】  
4月28日(木) 第1回PTA・教育振興会理事会  
5月11日(水) 登校時一声運動①(保護者16名)  
盛岡地区PTA連絡協議会【県】  
5月13日(金) PTA・教育振興会総会  
**NEW** 5月20日(金) 東北地区高P連盛岡大会実行委員会【県】  
5月26日(木) 3学年PTA(保護者86名)  
6月 3日(金) 県PTA定期総会並びに研究協議会  
6月10日(金) PTA研修旅行(秋田県立大学等)(保護者12名)  
6月15日(水) PTA広報委員会①(※12/5②、12/12③、1/13④)  
**NEW** 6月16日(木) 東北地区高P連盛岡大会実行委員会【県】  
6月22日(水) 第1回県合同委員会及び代表各委員会【県】  
**NEW** 6月30日(木) ~7月1日(金) 第71回東北地区高P連盛岡大会【東北】  
(実行委員長は本校の志田教育振興会長)  
**NEW** 7月13日(水) 母親委員会企画「高校生向け性教育講座」  
オンライン聴講案内  
7月20日(水) PTA広報誌(第3号)発行①  
8月18日(木) 盛北祭PTA企画打合せ(保護者7名)  
**NEW** 8月25日(木) ~26日(金) 第71回全国高P連石川大会【全国】  
8月27日(土) 盛北祭PTA企画「ことばの花束」展示  
9月22日(木) 第22回母親会員交流会【県】  
10月 5日(水) 1学年PTA(保護者108名)  
10月 6日(木) 登校時一声運動②(保護者20名)  
10月21日(金) 2学年PTA(保護者115名)  
第31回会長研修会【県】  
10月27日(木) PTA・教育振興会会計中間監査  
11月22日(火) 第2回PTA・教育振興会理事会  
**NEW** 12月27日(火) 県高P連 PTA広報紙コンクール審査会【県】  
PTA広報誌「MORIKITA」第2号 最優秀賞  
東北コンクール出展へ  
令和5年  
1月13日(金) 盛北祭PTA企画「ことばの花道」展示  
**NEW** 2月10日(金) 東北地区高P連 PTA広報紙コンクール審査会【東北】  
PTA広報誌「MORIKITA」第2号 最優秀賞  
2月15日(水) 3学年PTA理事会  
3月 1日(水) 卒業式 PTA情報誌(第4号)発行②

## MORIKITAを知る 2

### 盛岡北高PTA情報誌「MORIKITA」

R4 東北地区高P連広報紙コンクール

#### 最優秀賞(初受賞)

R4 岩手県高P連広報紙コンクール

#### 最優秀賞(初受賞)



令和3年度にリニューアル創刊され、毎年6月と3月に発行。当会の活動をわかりやすく紹介しています。令和4年3月発行の第2号は、当会の活動や紙面の充実ぶりが評価され12月の県高P連広報紙コンクールでは最優秀賞を受賞。さらに県代表として出展された令和5年2月の東北地区高P連広報紙コンクールでも最優秀賞を受賞しました。

時に厳しく、時に優しく  
子どもたちを信頼し  
導いてくれる愛がある



校長 小原由紀

子どもへの深い信頼、それは「愛」――

## そうだ、どんどんのぼれ

コロナ渦中の3年間、逆境を糧に逞しく成長した生徒たちが巣立つの時を迎え、盛岡北高の歴史に新たな頁が加わります。卒業生の保護者の皆様には、お子様の御卒業を心からお祝い申し上げます。また、PTA会員各位には、日頃から本校の教育活動推進にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、昨年来、「3年ぶりの開催」といったニュースを頻繁に見聞きするようになった。本校でも、感染対策を最優先し形を変えながらも様々な行事等を3年ぶりに実施した。入学式の音楽部による生歌の校歌紹介、PTA総会、修学旅行、ウインターセッションなど。

盛北祭は、PTA会長、生徒会長、教職員が膝詰めで話し合い「有観客」を決断した。クラス企画もゴーサイン。「今の私達ならば適切な行動・リスク管理を自身で行えると判断され、信頼されたから」とパンフレットに生徒会長の言葉がある。信頼は、愛なのだ。信頼に応えるのも愛なのだ。いつもながらの見事な書道パフォーマンスによるテーマ「愛なのだ」が堂々と掲げられ、師弟和熟、家庭和熟の笑顔と愛に満ちた盛北祭となった。生徒の皆さんには信頼に責任をもって応え、成長を示してくれた。

のぼり坂のペダル踏みつつ子は叫ぶ「まっすぐ?」、そうだ、どんどんのぼれ

佐佐木幸綱の短歌である。自転車を練習する子が「まっすぐ?」と必死に問う。親は、そうだと肯定し、どんどんのぼれと応援しながら見守る。この部分にはかぎ括弧がないので、親の言葉は心の中だ。手を差し伸べる方が楽なのだけれど、グッとこらえて子どもの自律を重んじる。根底には、子どもへの深い信頼がある。愛なのだ。

卒業式は、一人一人卒業生全員に愛を届けられるよう、教職員一同知恵を絞り、工夫と準備を重ねて前途を祝します。

卒業生の皆さん、そうだ、どんどんのぼれ。

## 「主体的に考える力」を身につける 盛北の「カシオペアタイム」

本校では、県内各校が取り組む「総合的な探究の時間」として、盛北では「カシオペアタイム」という授業を積極的に展開しています。この授業の目的は、変化の激しい現代社会に生きていく生徒たちが、自分自身の生き方を探ることなどを通じて「主体的に考える力」を身につけること。その授業内容は多岐にわたり、本年度は20回以上の授業を実施しました。



カシオペアタイム担当  
鈴木 徹 教諭

### 新時代への適応力育む

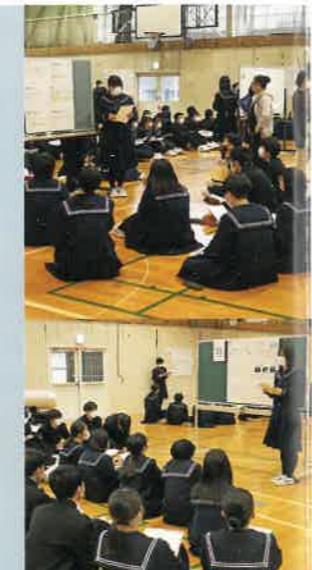
見通しがきかないこれから社会は、与えられた課題を解決するだけでは適応していくことができません。授業では工夫を凝らして示された様々な課題について「質問づくり」を徹底して行うことを通じて自ら課題を発見する力を効果的に育みます。



3年  
三上 聖杏蘭さん

たくさんの気づきがあった

被災者の方々は震災を思い出したりしなかつたり、海が嫌いになったりする人が多いと思っていましたが、震災を前向きに捉えて震災があったからこそできることを考えているのだと感じました。また、悩みや不安をもつ人のケアをどうしていくべきかわからなかったのですが、目の前の人に一瞬でも笑顔に元気にすることが1つの方法だと気づくことができました。



身近な社会問題をテーマに調査した3年生代表による発表を1・2年生399人が聞き、それぞれ10個以上の質問を考えるという授業も行われました。

### MORIKITAを知る 3

#### 盛岡北高のバイブル

#### 「師弟和熟」

毎年5月発行の本紙は、これまで蓄積されてきた盛北の進路データや合格体験記など貴重な情報が満載で、進路ガイダンスにも使用されています。



生徒会長 2-5 山田湧心

今年度の文化祭は、昨年度に比べて非常に自由度が高くなったと感じます。例えばクラス企画の許可が下りたり、家族の来場も可能になりました。これは大変喜ばしいことです。しかし、私は喜ぶだけではいけないと考えます。なぜなら、人が自由を与えられるとき、同時に責任も与えられるからです。では、今年度の文化祭における、私達の責任とは何でしょうか。

そもそも、なぜ今年度の文化祭は昨年度よりも自由度が高いのでしょうか。もちろん、コロナウイルスの警戒レベルが下がったからという理由は正しいです。ただ、それ以外にも理由があると考えます。私たちはコロナ禍で様々なイベントを経験してきました。そのため、今の私達ならば適切な行動・リスク管理を自身で行えると判断され、信頼されたから自由度が高くなったのだと思われます。

これらを踏まえると、今年度の文化祭における私たちの責任は、その信頼に見合った成果を出すことではないでしょうか。それは決して簡単なことではありませんが、北高の生徒ならば見事に成し遂げ、文化祭を成功させると信じています。

生徒会長や教職員、PTA会長が膝詰めで話し合って有観客開催を決断した盛北祭パンフレットには信頼という愛に応えようとする子どもたちの決意が記されている。

被災地の復興に向けた取り組み  
同じ岩手県人として  
どう復興に向き合って  
やべきで  
みたいいことは?  
か?

カシオペアタイム(5月)

NPO活動で被災地支援に携わってきた  
保科教諭を講師に「復興教育」

5月のカシオペアタイムは、2回にわたって「復興教育」をテーマに行われ、本校の保科教諭を講師に迎え「被災地での活動を通して学んだこと」と題して講演を行いました。

本年度採用された保科教諭は、学生時代からNPO活動を通じて本県の被災地支援に携わり、講演では「ボランティア活動は自分に対する最高の投資。そして目の前にいる人々を明るくすることが私に出来る復興支援」などと日ごろの思いを話し、貴重な経験に裏打ちされた言葉の数々は子どもたちの心に響き渡り、考えるきっかけを与えていました。

最後に保科教諭は「地震がもたらしたのは津波だけじゃない。陸前高田に新たな風を吹き込んでくれたという地元の人の言葉に影響を受けました。皆さんは同じ岩手県人として、どう復興に向き合っていくべきでしょうか。被災地の人々のために何かやってみたいと思ったことはありますか」と問い合わせ、子どもたちはそれに受け止めてたくさんの質問をつくりました。

講師  
保科教諭

神奈川県川崎市出身。陸前高田市NPO「SET」に所属。大学1年次から被災地での「ひとつづくり・まちづくり」に携わる。令和4年度に本県高等学校の教員として採用。本校で英語教諭として教壇に立つたわら、休日等を利用して被災地の支援活動を続けている。



# つながる 愛

大きな夢を心に抱き  
苦楽をともに育んだ  
絆と呼ばれる愛がある



## 2人の3年生がつないだ 盛岡北野球部の「絆」と「夢」

令和4年7月8日から22日まで開催された第104回全国高等学校野球選手権岩手大会。盛岡北野球部は12日、県営球場で行われた1回戦に臨み、北上翔南高と対戦しました。試合では選手一人ひとりが日ごろ鍛えた練習の成果を遺憾なく発揮。11-2の7回コールドで見事勝利を收めました。2回戦は古豪の宮古高と対戦し1-16で敗れましたが、この県大会での1勝は、盛岡北野球部にとって忘ることのできない大切な思い出となりました。

昨年度から極度の部員不足に陥り、合同チームで公式戦に臨んでいた盛岡北野球部。思うような結果を残せず、令和4年春の総勢はわずか部員5人とマネージャー1人。特に3年生は主将の佐藤航平さんとマネージャーの藤田音央さんの2人だけでした。

しかし、2人には入部した時から「盛岡北の全校応援の大舞台で野球をする」という大きな夢がありました。2人はその夢を決してあきらめず、3年間懸命にチームの命脈と仲間たちの絆をつなぎ続けました。そして願いは通じ、本年度7人の1年生が入部。新生チームは互いに励まし合って必死に努力と経験を重ねてこの夏、盛岡北応援団の大声援に包まれて念願の勝利を手にし、ついにその夢を叶えました。



最後の夏、私たちの夢が叶った  
「全校応援」の中で最初で最後の勝利  
一生忘れられない夏になった



皆に支えられてきた。本当に夢が叶った



ありがとう!  
主将  
佐藤 航平 さん

「甲子園で全校応援の中で野球をしたい」これが私の高校野球のスタートでした。それから2年半、私は自分の無力さや心の弱さに何度も気づかされ、その度に挫けそうになりましたが、周りの人たちに支えられて、とにかく立ち上がってきました。「応援される存在」なのだからと自分を奮い立たせました。最後の夏は、全校を代表して3年生が甲子園にも負けない盛大な応援を球場に響かせてくれました。夢が叶った、魔法のようだ、そして野球の神様が身近にいるんだと感じました。本当にありがとうございました。

2人の3年生  
マネージャー  
藤田 音央 さん

気持ちを込めてきた。本当に嬉しかった  
盛岡北野球部が夏の県大会ベスト4の快挙を成し遂げたのは私が小学5年生のとき。その盛岡北に入学したたった一人の同期部員と「全校応援の中で試合をしよう」と約束して始まった日々でしたが、それは簡単なことではありませんでした。悔し泣きをすることがない私でしたが高校野球では何度も泣きました。それほどこのチームに気持ちを込めていました。最後の夏、3年生の大応援の中で私たちにとって最初で最後の勝利を飾ることができ本当に嬉しかったです。一生忘れられない夏になりました。支えてくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。



盛岡北野球部

高見 延也 監督



かけがえのない経験と財産に

「コールド負けからの春…」、どこかの新聞記事にこの一文があったような記憶があります。

振り返ると入学式の後から新入部員の勧誘に奔走し、1年生7名が入部してようやく単独チームでスタートできました。しかし春の公式戦は経験不足でまともな勝負できず、あっという間に敗戦。思えばそこからが私たちの本当のスタートでした。

まずは試合経験を重ねることが大切と、春の敗戦を活かして軸をぶらず練習を重ねました。すべては夏につなげるため。迎えた2ヶ月後の夏の公式戦。1回戦の北上翔南戦では、県営球場を搖るがす盛大な応援が力となって選手たちが大活躍し、一人ひとりが主役となって輝きました。結果は11-2とコールド勝ち。ついに勝利をモノにしました。2回戦では力及ばず敗れましたが、選手たちは本当によくやってくれました。特に3年生は2人だけでしたが、常に周りのことを考えひたむきに努力する佐藤主将としっかり者の藤田マネージャーがチームをリード。単独チームで試合に出場するために何をすべきかを常に考え、後輩たちをよく引っ張ってチームをうまく機能させました。この3年間は波もありましたが、順調に成長曲線を描いてくれたと考えています。最後まで試合をやり抜き、すべてをあきらめずに貫けたことは、チームにとってかけがえのない経験と大きな財産になりました。

皆さんにお忙しい中球場に足を運んでいただきしたこと、温かい声援を送っていただいたこと、そのすべてが力になりました。子どもたちが大好きな野球を続けることができて、そして素晴らしい仲間とめぐりあうことができて良かったと思います。支えてくださって本当にありがとうございました。



コロナ禍の混乱を立ち止まることなく懸命に乗り越え、令和4年度を迎えた盛岡北PTA。社会がようやく落ち着きを取り戻し、少しずつ希望が見え始めた今、改めて思うのは、子どもたちには今しかない盛岡北での生活を大切にし、希望する未来へ大きく羽ばたいてほしいという心からの願いです。

コロナ禍を通じて私たちは、「あたりまえ」の尊さを知りました。子どもたちの日々の生活は、保護者や先生方をはじめ子どもたちを大切に思ってくださる多くの皆さんの「愛」のチカラに支えられています。そしてこの盛岡北にはいつもたくさんの愛があふれ、さまざまなストーリーを通じて子どもたちの心を豊かに育んでいます。

私たち盛岡北PTAはこれからも、そのことに寄せる思いと感謝の気持ちを大切にしながら、持ち前の「愛」のチカラでこの素晴らしい学び舎と子どもたちを成長を支えていきます。

## MORIKITAを知る 4



盛岡北高生徒会誌  
「カシオペア」

毎年3月発行の生徒会誌。生徒会活動や行事の紹介、部活動の様子や活動実績、先生や生徒のコメントなどが満載で、生徒たちの学校生活をわかりやすく紹介しています。





第17回岩手日報高校書展  
優秀賞 菊池 彩 3年

第17回岩手日報高校書展  
入選 吉田芽生 3年

第45回岩手県高等学校総合文化祭書道部門  
第1種 漢字・仮名部門  
優秀賞 大平 基 2年

書

# 絵

各絵画は第45回県高等学校総合文化祭 美術工芸展  
絵画部門の入選作品です



「伶」 鈴木こごみ 1年



「東食う」 斎藤愛華 2年



「遠征のバス」 小森万愛 2年



「mamma」 井上菜々実 3年



「蒼穹」 吉田恋羽音 1年



「六道図 惱悔(サンゲ)」 小原淑昌 2年

本校はコロナウイルス感染症の予防対策を適切に実施しており写真の撮影時のマスクを外しています

